

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No.

2909

科目概要記入欄

1. 開設大学	島根県立大学		開催 方法	■ 対面 ()		
				□ オンライン (同時・録画・資料提示)		
				□ その他 ()		
	2. 正式科目名 副題	日本文化論			配当年次	1・2
					受入学年	1・2・3・4
	学問分野	番号	11	名 称	人文科学系 文化・文学	
3. 担当教員名	小泉 凡					
4. 単 位 数	2 単位		5. 開講学期	後期集中		
6. 開講期間 曜日・時間	2026 年 2 月 15 日 (日) ~ 2026 年 2 月 28 日 (土) 曜日 : ~ :					
7. 基礎知識の有無	・「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数	人		9. 選考方法			

10. 科目内容・授業計画	本授業では、主として伝承によって継承されてきた有形無形の日本の民衆文化の特色について、西洋との比較の視点をまじえて学ぶ。具体的には食生活、住生活、旅、葬送・産育の儀礼、妖怪、小泉八雲の日本論などを取り上げ、それぞれのテーマから背景にある日本人の精神性の特質について修得する。本授業の履修を通して、日本の民衆文化の特質を比較文化的視点から理解できるとともに、古来の伝承を、現代の生活との関連性においてとらえるまなざしを身につける。 【到達目標】 1. 庶民の生活文化の特色を説明することができる。(知識) →まとめテスト 2. 過去と現代の生活との関連性を説明することができる。(知識) →授業時の感想文、まとめテスト 3. 比較研究の視点で日本文化の特色を説明することができる。(知識) →まとめテスト 4. 授業開始時に着席し、積極的に授業に参加する。(態度) →出席状況、コメントカード [各回ごとの授業内容] 1. イントロダクション：日本の民衆文化を学ぶ意味 高等学校までの歴史教科書の内容はおもに支配階級の歴史。大多数を占める民衆の歴史を伝承から考える必要性について学ぶ。 2－3. 食の文化論～おにぎり・餅・酒・食器など～ 日本人の主食である米。その米に宿る穀霊信仰について学ぶ。また中国や朝鮮半島とは形状が異なる、先がとがった日本の箸に見える食文化の特色を考える。 4. トイレの文化論～境界としての厠～ トイレは屋敷の中でもとりわけ外界、異界と接する場所。昔話の「三枚のお札」になぜトイレが出てくるか、なぜトイレは学校の怪談の舞台になるのか。「境界」という視点から厠文化を考察する。 5. 日本人と旅～講の発達と御師の活躍～ 日本では江戸時代頃から、集団で寺社参詣を行う民衆の旅が隆盛した。また旅文化を支えた旅行代理店の顔をもつ御師の活動について学ぶ。 6. 西洋における旅～禁酒運動とマスツーリズムの発展～ 19世紀イギリスでの禁酒運動から派生した団体旅行が、西洋のマスツーリズムの発展につながったことを学ぶ。 7－8. 通過儀礼と日本人～葬送・産育・の儀礼、霊魂信仰と「白」の意味～ 通過儀礼を通し、日本人の霊魂不滅、遊離魂という霊魂観を学ぶ。また通過儀礼の際に重視される「白」という色がもつ「死と再生」の意味について考察する。 9－12. 妖怪と日本人～妖怪の概念と分類、一つ目小僧にみる民俗信仰、妖怪と妖精（ザシキワラシとバンシー）、水木しげると小泉八雲の響きあう妖怪観～ 日本の多彩な妖怪文化の諸相について学ぶ。妖怪の考察はそこに底流する民俗信仰の解明にもつながる。ケルト文化圏の妖精伝承との比較や妖怪文化を日本から発信した水木しげる、小泉八雲の妖怪観についても考える。 13－14. 小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）がみた明治日本と未来の日本～八雲の異文化理解がもたらすもの：ボナー・フェラーズと戦後の日本～ 山陰とも縁の深い作家小泉八雲は、出雲大社本殿への昇殿も許され、神道に底流する祖先信仰について体験を通して深く理解した。八雲作品を愛読したマッカーサーの側近ボナー・フェラーズが八雲の日本理解を活かして戦後日本の象徴天皇制を実現しようとした経緯を探求する。 15. 日本文化特質のキーワード〈両立型・高文脈・縁の人間関係〉 伝統的な日本文化のみならず現代の日本人にも見出せる、「両立」「高文脈」「縁」とう特質とその意味を考える。 16. まとめテスト		
11. 試験・評価方法	成績は、小論文形式のまとめテスト(60%)、授業時に提出する感想文(10%)、出席状況(30%)などを考慮して総合的に評価する。		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	【テキスト】 必要に応じてプリントを配布する。 【参考文献】 参考書は、そのつどプリントに記載して紹介する。 【その他】 授業中に紹介した参考文献や、日本文化に関する文献を、積極的に読むことが望ましい。		
14. 社会人受講	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否